JICA 草の根技術協力事業に応募して
（トンガ王国の歯科保健のためのプロジェクト）

南太平洋医療隊
河村 サユリ

草の根技術協力事業に応募して学んだ事は数多くありますが、その内の一つがプロジェクトサイクルマネージメント手法（以下 PCM 手法と略）でした。　トンガ王国への援助事業提案に際し、JICA 職員をはじめ歯科領域以外の人々に日頃、何気なく使っている歯科用語を理解してもらう事の難しさ、特に文面から読み取ってもらう事の困難さを知りました。同時にこの事業が論理的にも倫理的にも適正である事が望まれました。　この事業立案時に必要な概念が PCM 手法で、発案、計画、実施、モニタリング、評価が一連のサイクルを成し運営管理していく手法です。　この PCM 手法は FASID（国際開発高等教育機構）により 1.参加型計画手法（PP: Participatory　Planning）と 2.モニタリング･評価手法（M&E: Monitoring　and　Evaluation）が開発され、日本の ODA で 90 年代半ばから使われているようです。　米国国際開発庁（USAID）が開発した“ロジカルフレーム”に発するプロジェクトデザインマトリックス（以下 PDM と略）とドイツ技術協力公社（GTZ）が参加型の概念を組み込んだ“ZOPP 手法―目的指向型プロジェクト立案手法”の考え方が取り入れられています。　PDM はプロジェクトの管理フォームで、記載された目標・成果・活動・指標・投入などの項目が相互に関連づけられています。　JICA が提起する PDM は関係者のワークショップで作り上げていくのが本来の姿なのですが、南太平洋医療隊が一堂に会するのはトンガ王国、日本では皆仕事に終われる身、故、今回提出した PDM は、隊員の意見を加味しながらも河村‘ｓ（＋医院スタッフ）と JICA 調整員とで作成しました。

PCM ワークショップでは詳細な関係者分析や問題を分析し、この問題を解決する手段を導くための目的分析までを系図の形で整理しますが、PCM 手法に精通したファシリテーターが必要です。　参加者の意見は全てカードに自身で書き提示されます。　より枝葉を広げるか、掘り下げるのかは議論され決定していきますが、他の人の意見を否定しないという事が大切です。　この後プロジェクトが選択され、ターゲットグループへのアプローチが絞られていきます。　これを基に PDM は作成されます。　参考までに現在までの南太平洋医療隊の PDM を掲載します。　目標を変えることは出来ませんが、状況に応じ PDM は作り変えていきます。　JICA との共通言語として PCM 手法を理解する必要があります。

FASID が開催する PCM 参加型計画手法やモニタリング・評価手法の研修に参加する事をお勧めします。　今冬、広島でのセミナーに参加しましたが、充実した 4 日間を過ごしました。　東京近郊でも開催されるのですが、私達のような小さな NGO メンバーは全くというほど受講許可がおりないという事です。　最後には試験が有り厳しくランクづけされます。　久々の緊張感も新鮮でした。　次回はモニタリングについてお話します。